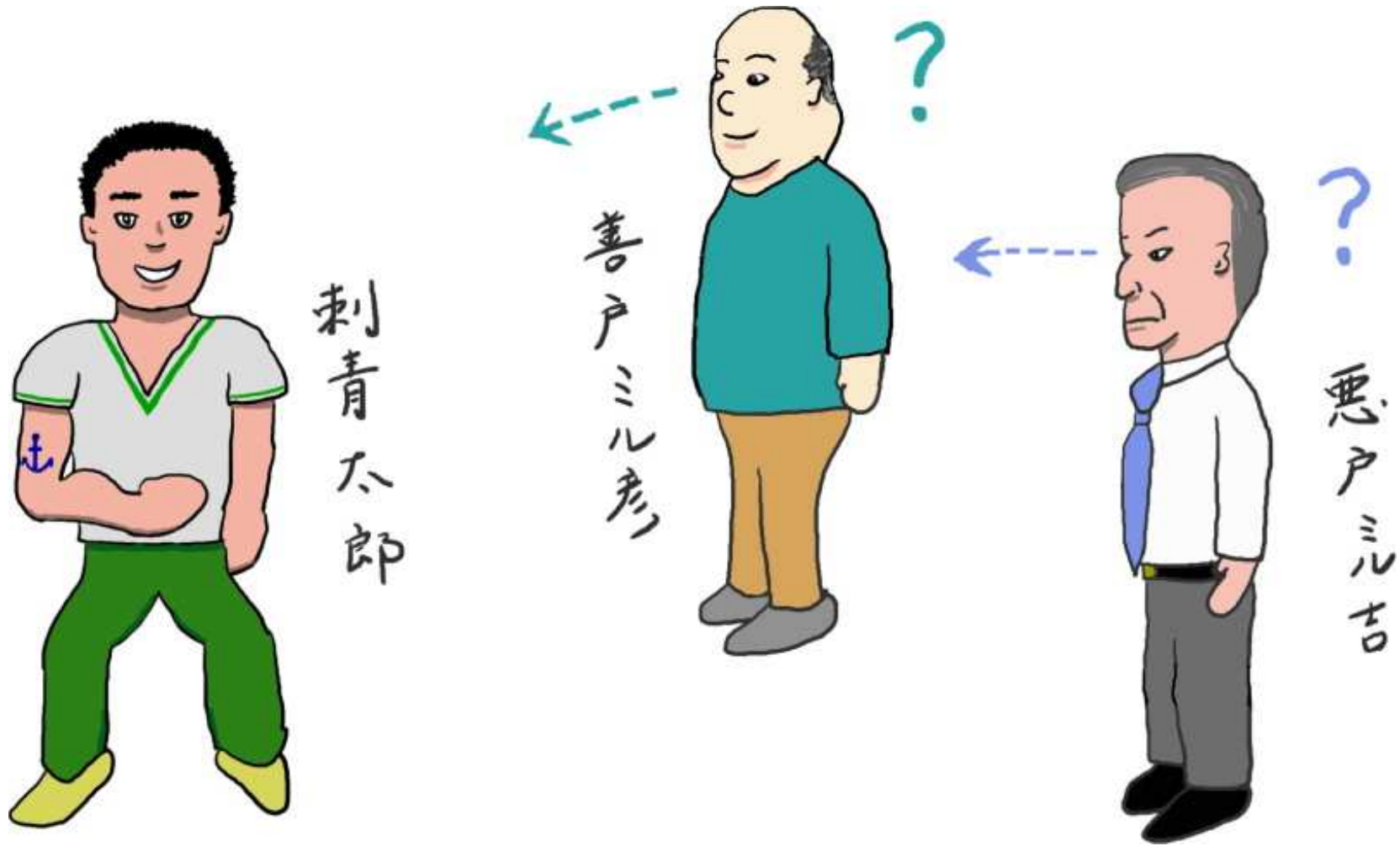


悪い善い人 - 2

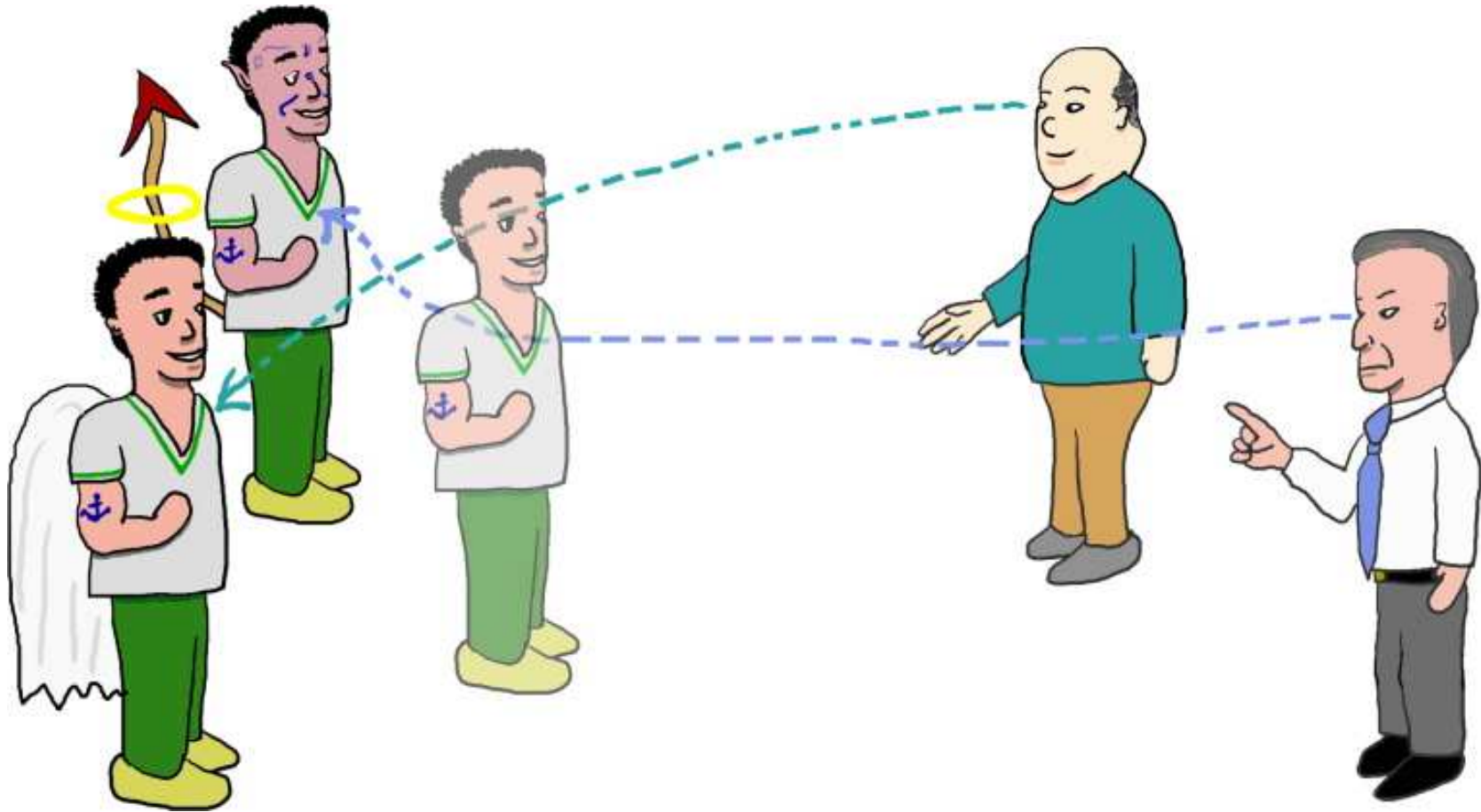


東郷 潤

あるところに刺青をした刺青太郎さんと、刺青太郎さんがどんな人かと考えている悪戸ミル吉さんと善戸ミル彦さんがいます。



さて、悪戸ミル吉さんは、刺青太郎さんを犯罪者、もしくはそれに近い悪人だろうと思いました。刺青をしていたからでしょうか。また、善戸ミル彦さんは刺青太郎さんを愛に溢れた善人に違いはない、と思いました。笑顔が爽やかだったからかもしれません。

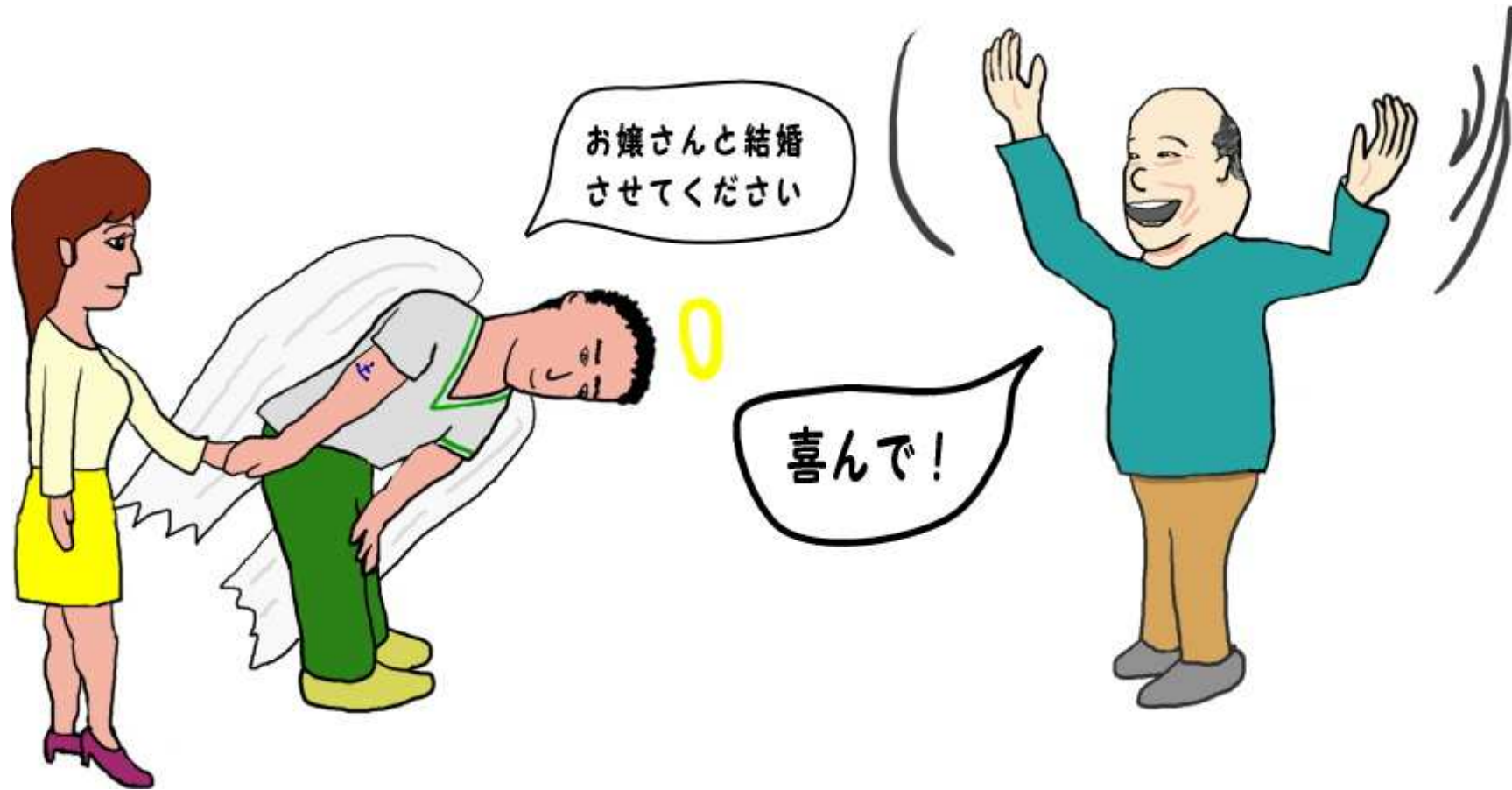


善戸ミル彦さんは刺青太郎さんをととても善い人だと思ったので、その認識に基づいて刺青太郎さんを扱います。例えば、善戸ミル彦さんが就職の面接官なら・・・



善い人を積極的に雇おうとするのは、当たり前ことです。

もし、善戸ミル彦さんの娘さんが刺青太郎さんと付き合ったら・・・？



愛する娘を、善い人と結婚させたいのは当たり前のことです。

もし、近くで強盗事件が起きたら・・・？



犯罪が起きたとき、善い人を疑わないのは、当たり前のことです。

ではここでちょっと悪戸ミル吉さんの視点を想像してみてください。善戸ミル彦さんの刺青太郎さんへの接し方は、悪戸ミル吉さんには、どう見えるでしょう？ 悪戸ミル吉さんは刺青太郎さんを善人ではなく、悪人だと思っていたことを思い出してください。



悪戸ミル吉さんが、こう認識する可能性はないでしょうか？ 「善戸ミル彦さんは、モラルを捨てた悪人の仲間だ」と・・・



あとがき ー絵本「悪い善い人ー2」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013